

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272000373		
法人名	社会福祉法人 緑鷗会		
事業所名	玉松ホーム		
所在地	青森県東津軽郡蓬田村大字瀬辺地字山田1番65号		
自己評価作成日	平成28年6月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成28年8月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関との連携が充実しており、看取りを行える体制を整えています。 清潔を保つために、入浴は週に3回の利用ができる機会を設けています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者及び職員は開設当初に作成されたホーム独自の「ささえ合いながら暮らす」という理念を共有しており、地域や利用者との関係や繋がりを大切にしたケアに心がけている。また、協力医療機関との連携がとれていることから、健康面についても安心して生活できるようになっている他、看取りについても、家族等の意向を踏まえて、協力医療機関や訪問看護との体制が構築されている。 ホーム室内は木材がふんだんに使用され、家庭的な雰囲気となっており、職員と利用者とのコミュニケーションがよくとれていることから、利用者はホールに集い、自宅で過ごしているかのように楽しそうに過ごされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内外に理念を掲げており、職員は理念を意識しながらケアに取り組んでいます。	開設当初に作成されたホーム独自の「さえ合いながら暮らす」という理念は、玄関やホールに掲示され、常に職員の目に入り、意識されるようになっている。管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解し、理念を意識しながら、日々の業務を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームだよりや運営推進会議を通じて、地域の方に参加を呼びかけています。	ホーム周辺に民家がなく、近隣住民が立ち寄るということはありませんが、ホーム前を通りかかる犬の散歩中の方や新聞・郵便配達の方等と挨拶をしている。また、老人クラブの方々と読み聞かせの方等の訪問を受け入れ、地域住民と交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老会・村民祭のイベントに参加することで、認知症を理解してもらえることがあります。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議にて、外部評価への取り組みや状況等について報告し、評価をいただいています。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、利用者の状況やホーム行事、感染症の流行、防災等、利用者の安全と安心について話し合いを行い、今後の運営や利用者の幸せにつながるよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話等にて親切丁寧に対応していただいています。	運営推進会議には役場の担当職員や地域包括支援センター職員が参加しており、情報提供の他、困った事があれば、いつでもアドバイスをいただける環境となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルもしくは研修へ参加し、内容を熟知してケアに取り組んでいます。やむを得ず身体拘束をしなければならなくなった時はご家族に説明し、了解を得ております。	マニュアルを整備し、身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している他、職員は内外の研修に参加して、身体拘束の内容や弊害について理解している。また、外出傾向のある利用者に関しては、職員が声がけをして付き添う等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加し、職員がストレスや問題を抱え込まないように、業務改善等にて、虐待防止と早期発見の対応に配慮しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会に参加し、職場で研修内容を発表して、職員が理解するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退去時には契約内容を説明している他、改定時の契約内容も入居者並びご家族に丁寧に説明して、不安や疑問点のないように説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付窓口が記載されている他、ホーム内にも苦情受付のポスターを掲示しており、苦情の受け入れ体制ができています。	利用者や家族が意見や苦情を出しやすいように、苦情受付窓口が明示されている他、玄関には意見箱を設置している。また、職員は利用者との日々のコミュニケーションの中からうまく引き出すよう働きかけており、些細な事柄でもホーム運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員ミーティングを開催し、意見交換する機会があります。なお、業務の改善や行事計画等については職員の意見を反映しています。	月1回、職員の会議を開催し、職員の意見や提案ができる場所を設けている。また、年1回、管理者と職員との個別面談の機会があり、職員会議等で話せない事等も、意見を出せる機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の健康診断と月1回の排便検査を実施し、職員の健康保全に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した後はレポートを提出し、職員に内容を説明して、日々のケア活かせるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催の地域内グループホームの交流会に参加しており、その時に得た情報が日々のサービス向上につながるようになっています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者の身体状況や思い、ニーズについて、面会時に、会話や表情等から把握するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談等がありましたら、時間をかけて親切丁寧に説明をし、家族の思いや希望等を受けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、地域包括支援センター等の関係機関と連携を図り、他のサービス機関に移行する支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事等をアセスメントで把握し、食事の下ごしらえや乾燥した洗濯物たたみ、手拭きタオルたたみや歌等、日々の生活で支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や入居者の思いを把握することにより、絆を崩さないように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居に際しては1日見学を行う等、ホームの雰囲気を感じていただけるようにしています。	職員は、利用者がこれまで大切にしてきた人との関係が途切れないように、知人や家族への手紙代筆の支援や、電話をかける際の支援を行っている。また、馴染みの床屋や自分の家に帰りたいという希望があった場合には、速やかに支援するようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のトラブルが生じた際にはお互い影響が及ばないよう、職員が双方の話を十分に聞き、配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された入居者に対し、時折訪問したり、担当ケアマネージャーと情報交換をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当制のため、日々の関わりや会話の中から情報を得ています。また、必要に応じて、ご家族等から情報収集を行っています。(電話、面会時)	職員は、利用者の生活歴や日々のケアの中でのコミュニケーションから、利用者の思いや希望、意向を把握するように努めている。また、意向等を上手く伝えられない利用者に対しては、普段からの様子や状態を注意深く観察し、汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人やご家族の生活歴、病歴、性格、趣味を記録し、職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月末に個々の介護連絡書を作成し、心身状態の現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては本人の意向を重視し、入居時にご家族から情報を収集している他、職員で話し合いの上、介護計画を作成しています。	介護計画は利用者の意向を重視すると共に、毎月、介護連絡書を作成して、利用者の情報を職員間で共有している。また、必要に応じて、家族や医療機関からの情報収集の他、利用者をよく知る人達の意見や気づきを反映させて、利用者本位の具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日24時間内での様子や訴え、健康状態、受診状況、気づき等を記録して申し送りをし、日々のケアに反映させています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時の送迎の他、本人希望の買い物等の外出支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員や地域包括支援センター、ボランティア団体との交流があり、理解をいただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人希望のかかりつけ医での受診(送迎)や、体調の不良時等は、週3回の往診の他、訪問看護ステーションとの24時間の連携をとっていますので、対応することができます。	入居時に、利用者や家族からこれまでの受療状況を確認し、把握している。また、利用者がこれまでにかかっていた医療機関や希望する医療機関を受診できるように支援している他、受診結果については、家族にその都度電話で報告をしており、共有化されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回の往診、週1回の訪問看護、24時間連絡がとれる体制になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携により、早期退院に向けた治療方針等を家族と相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応について、入居者や家族に同意をいただき、サービスを提供しています。	「看取りに関する指針」や「看取り介護にについての同意書」を作成しており、ホームとしての方針を明確にしている。入居時に、利用者が重度化した場合や終末期の対応に備えて、十分に説明している他、入居後も利用者や家族等の状況に変化があった場合には、随時、話し合いを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加した後、受講内容を他職員に伝え、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練、消火通報訓練、機器の使用訓練をし、昼夜を想定して訓練しています。	年2回、日中を想定した避難訓練を実施しており、職員と利用者が定期的な訓練を行っている。また、災害時に備えて、飲料水や米、インスタント食品、缶詰、灯油、反射式灯油ストーブ、発電機等を準備している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮を要する時は、居室内や小声にて、本人や周りの入居者にも配慮をしています。	職員は利用者の言動を否定せず、小さな事でもしっかりと受け止める姿勢で利用者に接している。また、トイレ介助時やおむつ交換時にも、利用者のプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉や行動にて、自己決定を促す場面を幾度となく設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを大切に、希望を取り入れて、穏やかに対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容院等については、馴染みのお店を利用する等、配慮しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に入居者の希望や好みを取り入れたり、職員も入居者と一緒に席に着き、食事を摂っています。	食事の献立は法人栄養士が作成し、利用者の好みや苦手の物等にも配慮したメニューとなっている。また、利用者の状況や意思に応じて、野菜の皮むきやすじ取り等の手伝いを行っている他、食事(昼食・夕食)の際には、職員も利用者と一緒に席に着き、食べこぼしのサポートをしながら、楽しく食事を摂っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士の作成したメニューを参考に、偏りの少ない食事を提供するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいをし、チェック表に記載しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄に対しては、プライバシーに気をつけ、尿取りパッドやポータブルトイレを利用して支援しています。(重度化しないように)	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、把握しており、食事の前後にトイレ誘導する他、個々の状況に合わせた対応を行っている。また、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、小声で、周囲に気付かれないような支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では繊維の多いものや水分、運動を取り入れ、それでも改善されない時は、医師や訪問看護師等に相談します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	男女と入浴の順番を変えたり、ユニット毎に入浴日を変えている他、入浴剤を変えたり、入浴中の会話にも力を入れています。	入浴は基本的に週3回となっているが、希望があれば、毎日入浴することができる。また、職員は利用者の入浴習慣を把握しており、つかり過ぎや洗身等に配慮し、適切な支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心配事や不安が生ずる場合は、本人の話を傾聴して取り除けるようにしていますが、それでも改善がみられない時は、医師や看護師に相談します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の投薬内容書を保管し、変更のある時は申し送り等で把握しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援については常に本人またはご家族と話し合いを行い、本人の決定を重視しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣施設等に出かけたり、墓参りや自宅、施設周辺等を職員と散歩しています。	可能な限り利用者の希望に沿った外出支援ができるよう、普段から利用者とのコミュニケーションを通じて、行きたい場所や思い出の場所を把握するように努めている。また、利用者の体調やその日の気分にも注意を払い、目的地や移動距離等にも配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのコンビニやスーパー等に職員と出かけ、本人が好み物を買ひ、支払いされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を代筆したり、電話(番号は職員が対応)は自室でかけられます。また、携帯電話使用の方もおります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の飾りや庭の草花(プランター)にて、入居者が楽しめるようにし、季節の移り変わりがわかるようにしています。	ホーム室内には木材がふんだんに使用されており、温かみのある造りとなっている。また、職員の声やテレビ等の音量も適切に調整されている他、遮光や照明についても適切に管理されている。玄関やホールには季節を感じることができる花飾りや壁飾りがあり、利用者を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にはソファやテーブル、テレビ等を配置しており、入居者同士や個人で過ごせるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況に合った居室にしている他、個々の好みに配慮し、居心地の良い空間となるように工夫しています。	ホームでの生活が利用者にとって居心地の良い場所となるよう、入居前から使用していた物や愛用していた物を持ち込んでいただいている。また、居室への持ち込みが少ない利用者については、職員が利用者と一緒に作った作品を飾る等、利用者一人ひとりに合った居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーにて、車イスや歩行が自由にできます。		